

石川県輪島市で生産される漆器「輪島塗」の新たな顧客や需要を開拓する動きが出ています。7月に老舗工房のレストランが開店、アークセサリーは外国人や若い女性にも人気だ。2020年度の生産額がピーク時の2割以下となり、職人の数も減少している。地元の自治体もふるさと納税を活用し若手職人を育てるなど官民挙げて活性化に取り組んでいる。

創業から200年以上の歴史がある工房、田谷漆器店（輪島市）は7月に和食店「CRAFT EAT（クラフイーット）」を金沢市に開店した。

工房の強みをいかし、輪島塗なら100種類以上、さらに九谷焼、珠洲焼、金箔塗りなどの県内の伝統的工芸品がそろつ。美術館で見るだけでなく「食事を通じて、使い心地の良さを感じ

輪島塗生産額、ピーク時の2割以下

レストラン・装飾品で需要開拓



日本を代表する優美な漆器だが、生産額は30年で9割減

輪島塗は堅牢（けんろう）さと優美さが特徴。黒、赤、金色が基調の輪島塗では珍しく、ブルーやピンクなどの色漆を使いアクセサリーを作っているのが采色塗（さいしきず）なカ門（かど）（輪島市）だ。

カラフルな輪島塗の指輪やピアス、結婚式のティアラも作る。主に食卓向けだった用途を、ファッショ

ン分野に拡大している。市場の縮小で2020年度の工賃数は前年度比1割

減の431カ所、塗りや時（まぎえ）職人など従事者数は16%減の1100人となった。どちらも統計を開始した1980年度以降、最少だ。

輪島市を歩くと、箸のオーダーメイドや輪島塗の漆器など、独創的な新商品を多

くみかける。工房が新規事業に注力している背景には、危機感が

品代は「直接支援」として紹介し、寄付金を募る。

ある。輪島市によると20年度の生産額は26億円と前年度比26%減った。新型コロナウィルスの感染拡大で、催事が中止。観光客が減ったことも響いた。180億円だったピーク時の1991年度に比べると86%減り、65年度（18億円）以来の少なさだ。

市場の縮小で2020年度の工賃数は前年度比1割減の431カ所、塗りや時（まぎえ）職人など従事者数は16%減の1100人となった。どちらも統計を開始した1980年度以降、最少だ。

輪島塗は20工程以上、総手数100回以上にも及ぶ丁寧な手作業で作られる。職人も場数を踏んで、腕を磨く。

田谷漆器店の田谷社長は「伝統的工芸品だからこそ、顧客に喜ばれる商品を作

る」と納税を活用し若手職人の支援を始めた。皿や酒（さけ）な（な）い」と話す。

（金沢支局 佐々木たくみ）

田谷漆器店の田谷社長は「伝統的工芸品だからこそ、顧客に喜ばれる商品を作

る」と納税を活用し若手職人の支援を始めた。皿や酒（さけ）な（な）い」と話す。

（金沢支局 佐々木たくみ）

大型小売り・ファッショ